

高等学校における

生徒の自立に向けた支援に関する研究

—アドラー心理学に基づく学級経営を手がかりとして—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 生徒指導・教育相談系

氏 名 下高原大智

高校生における精神面での自立に向けた支援の充実を目指し、その手立てとしてアドラー心理学を基礎とするアプローチを設定した。その中でも、共同体感覚を獲得し、社会と調和して生き抜くための「勇気づけ」(Encouragement)を核とする学級経営を実践した。具体的な内容の第一は、生徒との信頼関係構築を目的とした授業者による自己開示、第二は自己肯定感に対する認識の変化を狙ったアドラー心理学の思想を紹介する授業実践、第三は学級やクラスメイトへの関心を高めるためのクラス会議の実施である。結果の評価と測定の方法としては、各実践の前後に記述式のアンケートを実施し、最後に実践全体の効果を測る学級満足度尺度(Q-U)のアンケートを行った。Q-Uでは、他者貢献や学級に対する充実感などの項目で有意差が見られた。記述式アンケートでは共同体感覚の向上が確認できる記述が見られた。以上のことから、アドラー心理学を基礎とする学級経営の実践には一定の効果があるという結果が得られた。